

# 七高僧

## ④

# 道綽禪師

今月は寺報八月号に続き、七高僧第四祖「道綽禪師」を紹介したいと思います。

### 道綽禪師の略歴

道綽禪師は西暦五六二年、中国の并州汾水にお生まれになりました。当時の中国は正像末の三時思想が盛んで、道綽禪師がお生まれになった年はお釈迦さまが亡くなられて一五二二年で、末法の世に入ってから十一年目だと考えられており、これが禪師の教義に大きな影響を及ぼしました。

十四歳で出家したと伝えられ、はじめは涅槃宗に入り、その教義をひろめておりましたが、四十八歳の時、曇鸞大師の旧跡である玄忠寺で大師の功績をたたえた石碑の文を読み、大いに感ずるところがあり自力修行によって仏のさとりを開くということは思い

もよらないことに気づいて浄土教に帰依されました。西暦六四五年八十四歳で玄忠寺にてお亡くなりになりました。

### 道綽禪師の著述・教義の發揮

道綽禪師の著述

『安樂集』二巻

『安樂集』は『仏説観無量壽経』(以下『観経』)の全体の意味についての解釈で、当寺の中国では『観経』に対する誤解があったのでその誤りを正しくするために苦勞された著述です。

道綽禪師の思想の中心は末法思想です。

末法思想とはお釈迦さまが亡くなられ千五百年たつと、お釈迦さまの感化力がなくなり、

社会的な悪が多くなり悪い世の中(悪時)になるという思想です。

道綽禪師は悪時では悪人でも行うことができる、易行でなければ仏にはなれない立場に立って教義を説かれました。

『安樂集』で「聖浄二門」という教判を説かれましたが、これは龍樹菩薩の「難易二道」の教判、曇鸞大師の「自力他力の釈に基つき、これらを総合分類して確立されたものです。

聖浄二門判とは一代仏教を実践的立場から聖道門と浄土門との二大分野に分けられます。

これは龍樹菩薩の難易二道判、曇鸞大師の自力他力の釈によってなされたものであることは前述しましたが、具体的には聖道門というのは、自力によって難しい行(難行)を修め、それによって悟りに

いたる法門をいい、これはこの世にあって成仏する難行道の教えをいいます。

これに対して浄土門は、阿彌陀仏の本願力によって浄土に往生し、それによって仏果(成仏)にいたることを教えた法門をいい、私たちの力は必要なく、すべて仏力(他力)による救い、すなわち易行道の教えに他なりません。

道綽禪師の思想の中心は末法思想にあると前述しました。末法の世では悪衆生が多く、聖道門の教えは道理が深く、悪衆生は理解力がかすかだから悪衆生には修めにくい道です。

一方、浄土門の教えは、本願力(他力)による救いであり、私たちの力(自力、能力や理解力)は全く必要ではなく、悪衆生の身でも阿彌陀さまのお浄土に救われて仏果(成仏)をいただくことのできる道と明らかにし、末法の世に生きる衆生はただ阿彌陀さまの本願によって救われていくほかにことをお示しくださいました。

# 法語の世界

## 〈原文〉

『嘆徳の文』に「以て弘誓に託すと申すことを「以て」を抜きてはよまず候ふと云々。

(『蓮如上人御一代記聞書 二百七十五

## 〈現代語訳〉

『嘆徳文』に「以て弘誓に託すとあるのをその「以て」を抜くは読まないのである。

### 二〇二二年秋季彼岸会法要について

日時 九月二十三日(金) 午前十時から  
会所 金光寺 本堂  
勤行 正信偈草譜・和讃六首引き  
講師 未定  
持参品 念珠・門徒式章・経本  
その他 金光寺仏教婦人会の皆さん、定例会になつています。

一般門信徒の皆さんの参詣、お待ちしております。  
新型コロナウイルス感染症の感染対策(マスク、手洗いなど)をされた上での参詣をお願いします。  
なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては中止することもあります。

